上津江地区振興協議会事務所開所式にて

上津江振興局だより

No.75
令和２年６月15日発行
上津江町の人口と世帯
（6/1 現在）
[人　口] 731 人
[世帯数] 359 世帯
[文　責] 古田 浩一

住民自治活動を本格スタート！

～住民自治組織説明会・事務所開所式～

6月1日から上津江地区振興協議会が住民自治活動を開始することになり、協議会委員ら約20名が出席し、事務所開所式が行われました。森口啓介会長から「住んでよかったと思える、楽しいまちづくりをしていきたい」とあいさつがあり、事務所看板が掲げられました。

5月20日（水）には、上津江振興局において協議会が住民自治組織説明会を開催し、住民約40名が参加しました。これまでの経過や基本理念、今後の目標等について説明が行われ、参加者から質問や意見が出されました。

住民自治組織説明会

説明会で出された質問・意見

① 上津江地区振興協議会とは何か？
② 班長の役割は何か？
③ 組織ができるのは良いことだと思うが、具体的な活動がまだ見えない。
④ 意見交換や情報共有のために定例会をした方がよい。

→

① 平成 17 年に作られた自治会や各種団体との連携、地域づくり活動を行う組織です。
② 班長の明確な役割は今のところありません。要望があれば事務局が出向いて説明を行います。
③ 今後の活動は今からみんなで考えていきます。話し合いの場を重ね、地域の意見を形にできるような活動をしていきます。
④ 行政や各種団体との連絡会議を行います。

『活き生きと暮らせるかみつえ』を目指して

～上津江地区振興協議会『上津江が好き！上津江の良さを発信』～

事務所開所に当たって、会長と事務局に「今後協議会が思い描くもの」について話を伺いました。

事務所前にて（上津江振興局２階）
左から安岡支援員、森口会長、片桐事務局長、三苫事務員

森口啓介会長（以下、森口）

ぼくは長い間県外に出ていたけど上津江のことはずっと心にあって･･･、絶対帰ってくると決めていました。帰ったとき、もったいないと思ったのは上津江の良さを発信するものが少ないこと。田舎の季節の食材など、関西の友人に本当に喜ばれる。

三苫香事務員（以下、三苫）

私も数年間日田に出ていて、母の田舎料理や野菜などが職場で本当に喜ばれて、改めて上津江に当たり前にあるものの価値を感じました。

―今回活動の中でやってみたいことは何ですか？

片桐健二事務局長（以下、片桐）

片桐
事務局長

まず、高齢者の見守りと情報発信です。見守りは既存の組織と連携していきたいと思っています。「みんなが集まって話す」ことが大切。ミニデイなど参加させてもらいながら良い方法を考えたい。

情報発信はインターネットを活用して上津江の小さなできごとから発信していきたい。

森口　インターネットやダイレクトメールを見た人が上津江に来る仕組みができたらいいなと思う。それと上津江の人が地元のいいところを発見する取組も。劇的に変われなくても一歩ずつ前に進みたい。

三苫　昔からの食の継承や加工品・野菜の情報発信、地産地消の取り組みなどもできるといいなと思います。

三苫
事務員

―上津江のために頑張ろう！と思う原動力は何ですか？

森口　何だろう（笑）上津江が好き。山・人が好き。やっぱり生まれたところだから？

森口
会長

片桐　小さい頃から「ここで暮らす」ってすり込まれてるのかも（笑）

―今後の活動の目標を教えてください。

片桐　都会に住む地元出身者や田舎好きの人と、上津江住民をつなぐ仕組みを作りたい。都会の人に田舎の情報等を提供し、支援をしてもらって、地域づくりに活用する仕組みなど。お互いが繋がってみんなが喜ぶことができたらいいと思う。行政と住民、住民同士、中と外をつなぐ組織になれたら。題して『つなぐプロジェクト』かな。

点と線、未来を つなぐ住民自治組織

松上　洋一さん

自分たちは子育て世代で「子どもたちの未来にどうつなげるか」をいつも考えます。今も点在して活動しているいろんな組織を線でつなぐのが住民自治組織。できる間にみんなで「行動する」ことが大事。基本を大事に新しいことに取り組みたい。

小さな取組から 上津江の元気復活

竹村　美和さん

昔と比べて少なくなったけど「みんなが集まる」ことはとても大切です。みんなが参加しやすい、小さな取組から始めて、昔の上津江の活気を取り戻せたら楽しい。個人的に文化財も好きで、何か保存活用できる取組もできたらといいなと思います。

昔・今・未来、みんなをつなぐ　思い描く夢　～協議会委員から～

自ら動いて みんながつながる

相垣　里美さん

過疎化高齢化が進む中、行政にプラスして自分たちの力で生活を守っていこうとする組織の役割はとても大きいと思います。みんなが自ら動いて、つながろうという流れを作るのが大事。組織の活動が新しい風になっていくことを期待しています。

より多くのものを 将来に残したい

吉田　豊晴さん

住民自治組織は上津江全体での取組を行う組織。今の上津江にとって本当に必要なものは何か。みんなで考えて、新しい仕組みを作り、より多くのものを将来に残したい。そのために小さなことから取り組めればいいと思います。

これまで関わってくれた人たちから応援のメッセージ

共通課題に 連携して取り組む

中津江むらづくり役場
永瀬英治事務局長

先に出来たとはいえ、やっと１歩踏み出せたばかりです。「みんなが主役のむらづくり」を合言葉に、皆さんが積極的な部会活動をしてくださっています。今後は、上津江・中津江共通の課題などについて、連携して取り組んでいければと思っています。

地域に出て 理解者を増やす

前 上津江地区振興協議会会長
嶋﨑　雄児さん

活動開始おめでとうございます。ここまで本当に大変だったと思います。活動は一番最初が肝心です。重責だと思いますが、どんどん地域に飛び出して、自分の思いや考えを伝えて仲間を増やし、積極的にがんばってほしいと思います。

第１回
集落支援員だより

安岡　二葉

集落支援員の安岡二葉です。今までの活動としては主に上津江地区振興協議会の事務局として、住民自治組織の立ち上げに関わらせていただきました。

今は新型コロナウイルス感染症予防のめの消毒液を配布したり、一人暮らしの方の訪問をしたりしています。

今後の活動として地域の困りごとを一つでも多く解決していくことはもちろん、この地域にいっぱいある財産（美味しい料理や生活の知恵など）を次につなげ、残していけるような取り組みも考えていきたいと思っています。

今後もよろしくお願いします。

６月８日（月）の取材メモ

今日は消毒液の配布のため午後から６件訪問しました。

その中で笹野の松下美代子さんと広川の魚形久子さんが在宅でした。

消毒液を渡して近況を聞き、書類の書き方など人それぞれの小さな困りごとに時間をかけて丁寧に対応します。

「やっぱり来てくれるのはありがたい。とても助かっています」と２人とも話してくれました。

色々なことを教えてくれる松下美代子さん

避難所における新型コロナウィルス感染症対策について

１　避難所では下記のことに取り組みます。

１）一人当たりのスペース（概ね４㎡）や通路等を広く設けます。

２）受付時の検温、健康状態の確認をします。

３）簡易間仕切り等を準備しています。

４）風邪症状や軽い発熱等がある方には別室を用意しています。

２　避難時は下記用品の持ち込みにご協力ください。

（ペーパー）タオル、体温計、スリッパ、マスク、ビニール袋、アルコール消毒液、熱中症対策用品等

■問合せ　上津江振興局総務振興係（55-2011）

子年生まれのペンリレー

昔の村報で掲載していた年男・年女の方に思うことを書いてもらうコーナーです。

今思うこと

信岡　早苗さん

６回目の干支を迎えてしまった。思えば歳月の流れは早いものだなあとつくづく感じている。回を重ねる毎に早く感じられ、最初の１２年まで、小学校時代が長かったと改めて思う此頃である。

白草地区から都留小学校までの３km 弱を歩いて登下校。途中で岩清水を飲み、野いちごを始めとする山野草を食べたものだ。よく食べてケロッとしている私を見て、主人からは『皿まで消化するのではないか』と言われた。私は『サバイバルゲームには生き残れる』と言い返したものである。

そして今一番有難く思うのは、６年間の徒歩通学である。雨や雪の日には（昔はよく降り積もった）、学校の近くに住む子供達が羨ましかった。が、スポーツが苦手で特に鍛えることもなかった私であるが、脚力だけは何とか維持出来てきたかと思っている。

今後も健康寿命の為にも歩きたいと思う。

故郷上津江を思う

壁村　正二さん

生まれて６回目、いや足かけ７回目の“子年”を迎え、満 72 歳という自分でも信じ難い驚きの年を重ね、足腰の痛みにつくづく老いを感じるこの頃です（しかし、気持は 20 代であるが･･･）。今は田植えの時期、頑張っています。

思えば、私達は戦後のベビーブーム世代で育ち、今は団塊の世代と呼ばれ、本当に苦しい貧しい時代でした。今は、夢のような豊かな社会の実現となりました。しかし、世の中便利になって豊かになればなる程、若者は街を求め、都会へ流れ、農山村はいつしか人が減り、切り捨てられ、美しいきれいな上津江はこれからどうなって行くのでしょうか？中でも美しい田畑や杉山はどうなる？

あたかも今年は、新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、人類を蝕んでいる中、車や携帯電話を１人１台所有し、IT（ロボット）産業が活躍するこれからの時代、長いようで短かった 72 年の歳月を懐かしく振り返る昨今である。感謝々々！

ペンリレーでは原稿募集中です。年男･年女の方は 400 字（原稿用紙1枚）程度でぜひ原稿をお送りください。

今月のほっとショット

すぎっ子こども園こどもの日クッキング中の一コマ。カメラを向けると寄り添ってくれる、とっても仲良しのうさぎ組（３歳児）さん２人でした。